

「通信教育バウビオロギーIBN」日本版へ向けて

石川 恒夫

2005年3月に故・高橋元さんの一周忌の集いとともに、この世に産声を上げた日本バウビオロギー研究会は、間もなく6年目を迎えます。年4回開催してきた定例セミナーがこの3月で20回を迎えるわけですから、たしかに5年の歳月が過ぎたということになります。

研究会の設立当初からの課題の一つとして、専門家養成としての「通信教育バウビオロギーIBN * 1」の日本での開講がありました。実は過去に何度か、IBN * 2から日本で開講するためのライセンスの書類が私のもとへ来ておりましたが、時期尚早と考え、あえてサインはしないで今日に至っています。以前、会報誌9号に「通信教育バウビオロギー」についての記事を執筆しましたので、詳細はバックナンバーを御覧いただくとして、この5年という節目を経て、いよいよ本格的に準備を始めたいと考えています。ちょうど去年はスペインで、その前にはフランスでバウビオロギー研究所の開設とともに通信教育も開始され、IBNとしてもアジア地域での展開を切望している時でもあります。

通信教育の概要です。

- ・教材は「バウビオロギーの指針」を踏まえた25章からなり、テキストは約2100ページに及びます。
- ・受講料はドイツで3800ユーロ（日本円では約50万円くらい）です。
- ・受講期間は原則1年です。建築関係者以外でも誰もが受講可能です。仕事をしている方にとって、夜、仕事を終えてテキストをひもとくことを考えますと、大変な負荷がかかることが推察されますが、私たちの建設業界、世界環境はますます健康な住まいを待ち望んでいると思います。
- ・途中2回のスクーリングの受講が義務づけられ、最後に口頭の終了試験があります。
- ・最終的にバウビオロギー（建築生物学者）の認定が与えられます。

これを実現していくために数多くの準備が必要です。

- ・いうまでもなく上記の膨大なテキストの翻訳が必要です。
- ・翻訳したものの内容の精査が必要であり、日本の諸事情を考慮した補足・補遺が大切です。
- ・スクーリングするための講師陣が必要です。その方々はテキストの内容を把握していなければなりません。
- ・相当の実力をもった翻訳チームを組まなければ、膨大なテキストの短期間での翻訳は不可能であり、そのための資金が必要です。およそ500万の経費がそのために必要とされています。
- ・広報や受講に伴う事務作業も煩雑となりますので、事務局体制の強化が必要です。

また本研究会も今までの任意団体の状態から、つまり法的義務もなければ、権利もない状態から、法人格という戸籍（人格）をもち、社会に受肉していかなければなりません。バウビオロギーを育むための社会的器が必要と思われれます。2008年の法改正を踏まえて、一般社団法人の検討を理事会で開始しています。私たち現在、100余名の会員が皆さん代替わりしても、未来の会員がより一層バウビオロギーを展開していけるような、そして安心・安全な住まいを求めるエンド・ユーザーの希望に応えつづける礎が今、築かれなければなりません。日本バウビオロギー研究会の皆様には、この事情をご理解いただき、御協力いただければ幸いに存じます。

* 1 通信教育バウビオロギーについては拙稿「ドイツにおけるバウビオロギーの教育制度 通信教育バウビオロギーIBNについて」会報誌『バウビオロギー』第9号18ページをご参照ください。

* 2 IBN：バウビオロギー・エコロジー研究所ノイボイエレン

『通信教育バウビオロジーIBN』日本版へ向けて(第二報)

石川 恒 夫

会報誌 19号に続き、通信教育バウビオロジー IBN 日本版へ向けてのその後の動きをご報告するとともに、本号の内容について、若干の説明をさせていただきます。

3月17日から4日ほどドイツでバウビオロジー・エコロジー研究所ノイボイエレンIBN、ルーペルト・シュナイダーさんと打合せする機会をもち、またスクーリングを受講する機会をもちました。いくつか先日お話したことの修正をさせていただきます。

- 1) 講座参加費は前回、約50万(3800ユーロ)と記しましたが、それはスペインで昨年開始された通信教育の受講費であり、もともとドイツIBNでは1680ユーロ(最後の筆記試験は別に100ユーロ)とのこと。日本円では約20~25万ということ。また学生、失業者などへの割引、また企業で参加する場合2人目からの割引、あるいは夫婦の参加の場合も割引があり、日本でもそれに準じた受講費、割引が考えられるでしょう。金銭的には許容できる額ではないでしょうか。
- 2) 通信教育としては目安として700時間の自習時間を見込んでいるとのこと。
- 3) 3月13日の定例セミナーの際に、ご意見を頂戴しましたが、受講生どおしがネット上で意見交換できる「フォーラム」がIBNのホームページに設けられております。実際にみてみますと、いわゆるQ&Aの「相談室」形式で、誰かの質問に対して皆が回答を寄せる形式です。どうしても孤独感に襲われる感がありますが、このような形でお互いに励ましあうことが可能です。これはしかし、通信教育に限らず、日々の仕事の質問を共有する場としても必要かと思われま。
- 4) テキストはペーパーとともにCDでの配布が考えられています。
- 5) テキストは随時更新され、毎年どこかの「巻」が最新情報に更新され、受講者(修了者)には、常に最新のテキストが配信されるようになっていきます。まさにこの分野こそ、限界値などが日々変わる状態でありますから。
- 6) IBNではお試し版として「3巻:室内環境」を希望者に配布しているとのこと。私たちはそのことを鑑みて、今回の20号において、通信教育IBNより「第17巻:居住心理学」を先行訳出しました。特にルーペルト・シュナイダーさんに会報誌への掲載許可をいただきました。是非ご一読いただき、感想をお寄せください。25巻2100ページですが、余白が多いので、実質私たちの感覚で見ますと、その半分位といえると思いますし、内容は大変読みやすいと思います。ちなみにこの17巻は原文は50ページに相当します。

通信教育バウビオロジー 目次

1 バウビオロジー入門	14 騒音 — 遮音 — 建築の音響
2 環境と住居の立地	15 建築構造
3 住環境	16 空間 — フォーム — マース (尺度)
4 建築工法と様式	17 居住心理学 (☆今回訳出分)
5 建材と部位のエコ収支	18 エコ社会的な空間秩序
6 木材防腐、住まいの害虫、菌	19 オープンスペース
7 生物学的建築材料学/建築の物性	20 住居生理学+住まいの安全
8 暖房設備	21 家具
9 給排水設備と節水の理念	22 光と照明
10 省エネコンセプト	23 塗料・色彩と表面処理
11 放射 (電磁波)	24 建築法規 — 条例 — 品質検査
12 電気設備	25 実務におけるバウビオローグ 【建築生物学者】
13 空気と汚染物質	